

総合計画／実施計画書 兼 事業評価シート

評価対象年度 H19 年度

評価実施年度 H20 年度

担当部局	部局名	教育委員会
	課室名	生涯学習課

6. 前年度の事業評価					評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。		
理由	文化財の調査によって豊後大野市の歴史を明らかにし、その価値を問い、その成果を市民に還元する基礎資料とするため。また、これらの情報を必要とする市民のニーズも高いため。					
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	5	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。		
理由	文化財は指定・未指定にかかわらず国民共有の財産であることが法律でうたわれており、行政の関与が定められているため。					
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。		
理由	調査研究の一部を外部委託することは現時点で可能であるが、経費的に大きな負担があることから、事業量から勘案しても直営が望ましいため。また、調査に携わるボランティアスタッフなどは、今後検討の余地がある。					
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。		
理由	調査は記録という成果で残されるため、事業効果は日を追うごとに上がっているから。また、補助金や助成金を活用して、費用対効果を高めているから。					
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。		
理由	補助金や助成金の獲得した上での予算であるから。引き続き補助金や助成金の獲得について、努力していくため。					
人 体 員 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	4	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。		
理由	市域の広さと県下でも有数の文化財数で対応に苦慮しており、現体制では対応が難しいため。					
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。		
理由	文化財担当部署として本事業は、その最も根幹を占める基礎資料の拡充であるため。また、今後、地方回帰の時代を迎え、文化財の調査研究について益々需要が高まる見込みであるから。					
その他、特記事項		事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
現状は、できる限りの量をできるだけの質で調査を進めている。ただし、文化財の持つ性質上、時間が経てば経つほど調査が難航することが予想されるため、特に人員面での補充によってより多くの文化財について調査を行っていくことが望ましい。						
部 長		課 長		班 長		担当者
						内線 3843 E-mail @bungo-ohno.jp